

磐田市と 冊子「昭和20年10月 天竜川 大洪水の記憶」の贈呈式を行いました。 ～「記憶」から「伝承」へ～

天竜川における戦後最後の破堤はん濫から70年になるのを契機に、洪水被害の記憶の伝承と防災意識の向上を目的とした「天竜川 大洪水の記憶」を当時被災された方々の証言を聞き取り、浜松河川国道事務所にて冊子をとりとめました。

天竜川右岸の浜松市(4/19(水))に続き、今回左岸の磐田市の皆様も災害のリスクを再認識するとともに、流域の郷土史への理解をさらに深めていただくため、磐田市役所にて冊子贈呈式を行いました。

【贈呈式 の概要】

平成29年 5月 1日(月)
磐田市役所 市長室

【渡部 磐田市長 談話】

水害の危険性はとかく「対岸の火事」としてとらえられる。

当時の被災者の方々のリアリティのある話に触れることで子供たちがいざという時に危機意識を持ち考えて行動できるようになっていただきたい。

【尾藤 事務所長 談話】

「水防災意識社会 再構築ビジョン」を掲げ、「減災」に取り組んでいます。「減災」のためには住民の皆様方に防災を意識していただくことが重要です。

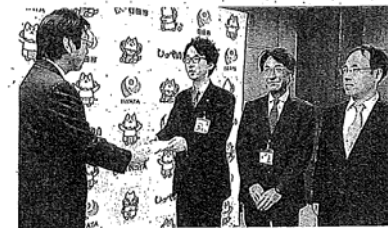
その一方で平時の河川空間は親しみやすいところであることも皆さんに知っていただきたい。



渡部 修市長(左から2番目)へ冊子を寄贈した
尾藤文人事務所長(右から3番目)

【磐田】「天竜川 大洪水の記憶」寄贈
国土交通省浜松河川国道事務所はこのほど、天竜川の水害の歴史をまとめた冊子「天竜川 大洪水の記憶」100冊を磐田市に寄贈した＝写真＝

冊子は1945年10月に34人の死者を出した台風をはじめ、明治時代や昭和初期などの災害の様子を取り上げた。写真や当時を知る人々の証言



を基に、水害の恐ろしさや防災対策の大切さを伝える。磐田市内の全公立小中学校に配布する。

市役所で行った贈呈式で、尾藤文人事務所長が渡部修市長に冊子を手渡し、「災害はいつ起こる

か分からない。常に防災への意識を持ってもらうための一助になれば」と期待した。

5/7(日)朝刊(静岡新聞)

磐田市内の小中学校へ
100部 贈呈